りぶらサポータークラブ
平成 21 年度 活動報告書

平成 22 年 3 月

りぶらサポータークラブ

ごあいさつ

りぶらサポータークラブは，岡崎市図書館交流プラザ「Libra」のオープンとともに発足しました。オープンして半年の平成 19 年度は，あわただしく過ぎました。平成 21 年度は，それまで「特定非営利活動法人　岡崎まち育てセンター・りた」に頼っていた主な事務局機能と事業のコーディネートを，りぶらサポータークラブ自身が担うことになりました。

生涯学習施設としてのりぶらを支援するオープン前からのプロジェクトと，新たな市民の活動を後押しするために広く募集したプロジェクトを事業の柱として，この 1 年活動してきました。また，会員やりぶら利用者の意見を聞く「対話集会」を開催したり，多くの市民や活動団体・地域で活躍する企業などとの交流や，地域の活性化のために「りぶらまつり」を企画しました。

初めての事業運営に戸惑うことが多い一年でしたが，全体事業として「子どもまつり」や「愛フェス 2009」「福祉まつり」に参加したことにより，他の地域や団体や分野の違う団体の人たちとも交流ができ，子どもから高齢者まで，多世代に渡る利用者への支援ができました。また，図書館・生涯学習・男女共同参画・市民活動・国際交流といった，市民活動総合支援センターの支援に一歩を踏み出すこともできました。それらの一つ一つが，活動に携わった会員一人一人の学びの場となり，クラブの力となっています。

この成果を元に，22 年度はさらに充実した活動を進めていきたいと思います。

りぶらサポータークラブ
代表　山田美代子

目　次

平成 21 年度の総括（結果と課題）　…… 1
平成 21 年度のプロジェクト一覧　…… 2
事業及びプロジェクト報告書
　運営・全体事業　…… 4
　交流部（No.2–No.3）　…… 6
　広報部（No.1）　…… 8
　研究部（No.4–No.10）　…… 9
　施設活用部（No.11–No.15）　…… 18
　活動育成部（No.16–No.18）　…… 23
平成 22 年度の運営方針と事業計画　…… 26

平成 21 年度の方針

平成 21 年 3 月 24 日に、りぶら・LSC・りたの三者会議を開催し、りぶらサポータークラブの運営、主に「LSC とりたの役割分担 (事務局機能含む)」と「LSC の平成 21 年度方針」について話し合い、平成 21 年度の事業を以下のように進めていくことが決まりました。

1. りたと LSC の役割分担 (事務局機能含む)

「基幹会議 (役員会、運営委員会、総会)」の企画・運営・記録までを LSC メンバーで責任を負う。全体事業のうち、「全館交流イベント (年 1 回)」と「フォーラム (年 2 回)」は、りたがコディネートする (マンパワー支援含む)。「対話集会・プロジェクト紹介・広報実務」は、LSC で責任を負う。

2. りぶらサポータークラブ運営方針

1) コーディネーターの育成

コーディネーターとしての専門技術をもつスタッフの養成に努める。スキルアップのプログラム実施に関しては、りたからも支援をもらう。

2) りぶらの 2 大ミッション (生涯学習拠点、中心市街地活性化拠点) を具現化する

市内全域の生涯学習活動が活性化するための活動を計画実行する。中心市街地活性化に寄不する活動を計画実行する。

3) アドボカシー活動の確立

りぶらの運営に関する市民提言活動を確立する。提言活動のためには、適切な情報収集、調査、分析が必要なため、行政に協力をお願いする (りぶら職員らのヒアリングやアンケート含む)。

3. 平成 21 年度の事業区分

1) 役員会
2) 運営委員会
3) 全体事業 (愛フェス 2009・講演会・冬のコンサートなど)
4) プロジェクト (P.1~P.2 参照)

4. 平成 21 年度の目標

本来なら、ここに「平成 21 年度の目標」が設定されるところですが、会則にある LSC の目標を前提としていましたので、年度目標を設定しませんでした。

結果と課題

結果と課題

1. りたと LSC の役割分担

結果 :「りぶらフォーラム Ⅲ・Ⅳ」と「りぶらまつり」の実施を「りた」に委託するという形で、役割分担をはっきりさせることができた。その他の全体事業や機関会議の事務局機能も、おおむね「りた」に頼らずに運営できた。

課題 :「委託」がほぼ「丸投げ」になってしまい、LSC としての、フォーラムやりぶらまつりの実施方針や目的を明確に打ち出すことができなかった。

2. 運営方針

1) コーディネーターの育成

結果 :「運営委員会」を承認機関とすることで、運営意識の格差をなくし、コーディネーターとしての運営委員のスキルアップを図ったが、会議の場では、運営意識の格差をなくし、円滑な会議を進めていくことが難しいことがわかった。

課題 : 次年度は会議形態を変更し、会員研修を実施する。

2) ミッションの具現化

結果 : プロジェクト活動はおおむね計画通りに進行し、それぞれの目標も達成された。

課題 : りぶらに必要な活動と個人の目標の仕分けをはっきりさせることが必要。

3) アドボカシー活動の確立

結果 : 事業の実施に追われ、提言活動を進めることが難しかった。

課題 : 施設活用活性化の事業と、提言のための研究プロジェクトをしっかり分けて取り組んでいきたい。

3. 平成 21 年度の事業

結果 :P.4 以降のプロジェクト報告書をご参照ください。

4. 平成 21 年度の目標

結果 : 事業の実施 (プロジェクトの推進) は、一定の成果を上げることができたが、運営の進め方や事業の実施についてやはり年度の目標設定が必要と感じた。平成 22 年度の運営方針と事業計画を P.26 に提示します。

平成 21 年度のプロジェクト一覧

	No	プロジェクト名：リーダー名：プロジェクトの内容
広報	No.1	**広報：杉浦仁美** ・一般向け広報誌の発行、会員向け情報誌の発行、ホームページの開設と更新、コンビニラックの活用、全体事業のチラシ・ポスターなどの作成。
交流	No.2	**りぶらフォーラム III、IV：山田高広** ・フォーラム III(7 月 18 日) － Libra で実現した市民ならではの活用方法紹介 －りぶらまつりに向けてみんなでつながろう ・フォーラム IV(12 月 5 日) －りぶら祭りを PR しよう
	No.3	**りぶらまつり：山田高広** ・Libra 全館を活用した市民手づくりのお祭り －フォーラム III、IV で生まれた Libra を活用している団体や地域団体などのネットワークを総動員する －子ども、若者、中高年、高齢者、それぞれにとって居場所のある交流の場をつくる
研究	No.4	**岡崎図書館未来企画：戸松恵美** ・岡崎市の図書館にふさわしい評価指標をつくり、客観的なデータに基づいた市民の声を図書館に提案する。
	No.5	**デジタル映像活用 (II)：木村剛也** ・絶滅危惧種であるアナログ写真を見つけ出してデジタル映像として収集する。 ・収集した映像を機会ある度に皆さんに見せる。 ・集まった多数の映像を整理する。
	No.6	**ボランティアシステムを考える会：山田美代子** ・行政や市民団体のニーズ調査　・システム作り　・ボランティア育成講座
	No.7	**りぶら施設活用状況の一覧表示システム化と利用者行動観察：森 和弘** ・施設活用状況の一覧を、システム化するための基本仕様を確定できるよう、手入力による一覧表の手順を確立する ・施設利用者の観察により、市民が求めている生涯学習プログラムを検証し、企画に反映することにより施設全体の評価指標に持っていけるような研究
	No.8	**りぶら生涯学習市民セミナー (講座) 研究：森 和弘** ・市民が学んだ事を、他の市民へ伝えていく為の活動の場を提供する、セミナーシステムの研究 ・個人の生涯学習結果を記録するシステムの提供のための研究

	No	プロジェクト名：リーダー名：プロジェクトの内容
研究	No.9	**つながろう“いのち”：斎藤美紀** ・「こどもまつり」「福祉祭り」に参加 ・夏休みイベント”いのちを大切にするワークショップ”「出会い系サイトなぜいけないの？どうして作られたの？」対象「中学生と大人」 ・赤ちゃん交流事業　・図書館まつりやりぶら 1 周年記念事業に参加
	No.10	**りぶらノベルティグッズの企画と販売：戸松恵美** ・グッズのニーズ調査を行う。 ・グッズの企画と販売計画をたてる ・発注と管理を考える。
施設活用	No.11	**りぶらっこ☆ふぁみりー：山田美代子** ・週 2 回の定期託児システムが軌道に乗ったので、託児回数の増加、講座やイベント時の託児依頼に備え、スタッフの託児活動のレベルアップを図る。 ・利用者の親子との交流や子育てに役立つような企画をする。
	No.12	**岡崎むかし語りの会：荒木一枝** ・むかし館などで、岡崎のむかし話を中心に語り伝える。 ・Libra を中心に、イベントに参加・協力をする。 ・講演会の開催やむかし話の舞台を訪ね、理解を深め、より親しめるように図る。
	No.13	**りぶらぶらりマップ：酒井立子** ・現行 (第 2 版) のりぶらぶらりマップの改訂・販売 ・りぶらぶらりマップを活用したイベントなどの活動
	No.14	**庭で遊ぼう：杉浦仁美** ・現在、バードハウスの継続的な観察会の中で、ソーラークッカー (あさがお) を使った太陽エネルギーの利用等の ECO 体験を企画中。 ・他にも、岡崎市図書館交流プラザ 西側の伊賀川を利用した「ポンツク体験」等を企画したい。
	No.15	**ひざ掛けづくり：稲森禮子** ・モチーフをつなぎ合わせたひざ掛けを作りながら、生きがい探しの語らいの場を作る。
活動育成	No.16	**調べ学習講座：戸松恵美** ・参加者同士で情報交換をしながら自分で決めたテーマについて調べ、作品としてまとめる。図書館の使い方やレポートの書き方などを講座形式で進める。
	No.17	**シネマ・ド・りぶら (Cinema de Libra)：戸松恵美** ・ホール上映が可能な映像資料を利用し、りぶらホールで無料上映会を開催する。
	No.18	**詩と音楽の午後：大石ともみ** ・地元岡崎にある詩誌「アルファ」の優れた先達詩人達の詩業等や良い現代詩を紹介 ・詩の創作と朗読会の開催

プロジェクト活動報告

総会、役員会、運営委員会、対話集会

（ リーダー：	（ 山田美代子（
プロジェクトの目的：	サポータークラブの円滑な運営、企画、実行、交流をする。（
活動実績（ （活動日・参加人数等）：	①総会＆基調講演（ （中川幾郎氏）（ 5 月 30 日（土）（ 13：30（～16：00（（場所：301～303 会議室（ 延べ 70 名（ （ （ （ 懇親会（ （ 18：00～20：00（ 場所：タイガーカフェ（ 12 名（ （ ②役員会（ 毎月 1 回（ 場所：市民活動コーナー（ 延べ 78 名（ （ ③運営委員会（ 毎月 1 回（ 場所：102B 会議室（ （ 延べ 156 名（ （ ④対話集会（ （プロジェクト中間報告＆交流会）（ 10 月 17 日（土）10：00～12：30（ （ 場所：301～303 会議室（ 30 名（ （ ⑤対話集会（ （ 1 月 23 日（土）9：30～12：30（ 場所：303 会議室（ 25 名（
プロジェクトの成果：	プロジェクトや多くの事業を運営できた。サポータークラブとしての事業の必要性が認識できた。（
平成 22 年度の展開：	整理された事業を進め、クラブの基礎を固める。会員の交流を図り、クラブの運営に積極的に関わる意識を向上させる。

全体事業

(	(
リーダー：	山田美代子(
プロジェクトの目的：	りぶら全体を利用する人を対象に、年代を問わず交流でき、まだりぶらを利用していない人にも足を運んでもらうようにする。りぶら以外の事業との協働を進める。プロジェクトには属さず、サポータークラブ全体で支援する。
(	(
活動実績(（活動日・参加人数等）：	①子どもまつりに参加(5 月 2 日(土)(10:00(～(15:10((場所：乙川河畔(14 名(②海堂尊氏講演会(実行委員会(第 1 回((8 月 25 日 （火） 13：00～15：00(場所：Libra 市民活動コーナー(9 名(③愛フェス(ＮＰＯ村に出店(9 月 5 日(土)10：00(～17：00(((場所：愛地球博記念公園(20 名余(④海堂尊氏講演会(実行委員会(第２回((9 月 23 日 （水） 10：00～12：00((場所：Libra 市民活動コーナー(10 名(⑤福祉まつりに参加(つながろう “いのち”、ぶらりマップの報告と展示(9 月 27 日 （日） 10：00～15：00(場所：中央総合公園体育館((8 名(⑥図書館まつりと協働(11 月 19 日 （木） ～24 日 （火）(場所：Libra 全館(各プロジェクト報告参照(⑥海堂尊氏講演会とパネルディスカッション(12 月 5 日 （土） 14：00～17：00(サイン会(17：00～17：30((((場所：りぶらホール((参加者(一般(110 名(高校生以下(13 名(実行委員(中学生 5 名(高校生 1 名(大学生 1 名(社会人 1 名(会員 4 名(協力：正文館書店((⑦冬のコンサート((場所：お堀通りの階段((12 月 19 日 （土）(11：30～11：30(合唱「PTA コーラス連盟合唱団」(50 名余(14：00～14：30(合唱「童謡(すみれの会」(50 名余(19：00～19：30(オペラ「カルッと」(100 名余((((
プロジェクトの成果：	愛フェスや子どもまつり、福祉まつりに参加することにより、他の市民団体との交流ができた。実行委員として若者を起用したことにより、若者がりぶらの活用を考える機会となった。また、サポータークラブの事業に参加したり、他のりぶらの事業に積極的に関わってきた。冬のコンサートではりぶらで活動している団体との協働ができた。
(	(
平成 22 年度の展開：	若者の起用をもっと進める。Libra のいろいろな場所の活用を広げていきたい。(サポータークラブの会員の参加をもっと促したい。

交流部：りぶらフォーラムⅢ＆Ⅳ（No.2）、りぶらまつり 2009（No.3）

（　　（

リーダー：　山田高広

（　　（

プロジェクトの目的：　りぶらが「全市における生涯学習の拠点」であるというコンセプトを具現化することを目的とし、りぶらの多様性(図書館、JAZZ 館、むかし館、国際交流、市民活動)が一望でき、市民の皆様に「りぶらってやっぱり楽しいね」と感じてもらう。

（　　（

活動実績（
（活動日・参加人数等）：
・5 月（ 第 1 回交流部会（
・6 月（ 第 2 回交流部会、第 3 回交流部会（
・7 月（ りぶらフォーラムⅢ：参加者 120 名（
（ ～あなたの知らない Libra 紹介、りぶらまつりに向けてつながろう～（
・8 月（ 第 1 回りぶらまつり実行委員会（
・10 月（ 第 2 回りぶらまつり実行委員会、第 1 回グループリーダー会議（
・11 月（ りぶらフォーラムⅣ～りぶらまつりを PR しよう～：参加者 50 名（
・12 月（ 第２回グループリーダー会議（
・1 月（ 第 3 回りぶらまつり実行委員会、第３回グループリーダー会議（
・2 月（ 第 4 回りぶらまつり実行委員会（
・２月 27 日、28 日（ りぶらまつり 2009：参加者約 6,000 人

（　　（

プロジェクトの成果：
・まつりを創りあげる過程において、企画者（LSC）と参加者(市民)、参加者（市民）と参加者(市民)の協働関係が醸成できたこと、参加者自身の主体性を育むことができたことで、岡崎市全体の市民活動の啓発となった。（
・市民と行政の横断的な関係づくりの実習となり、今後ＬＳＣが進める事業をより充実させ､官民協働で Libra 活性化を図るための足がかりとすることができた。（
・各プロジェクトを取りまとめるグループリーダーを、中心市街地活性化を共に進める NPO や国際交流などに関心のある市民、また、まちづくりに関心のある若者が担うことができ、大きな成果となった。

（　　（

平成 22 年度の展開：
（ 来年度に向けた検討課題として､時間と発想のリミットをどう設けるかが挙げられる。今回は最後の最後まで粘ったことによって、プログラムの確定と情報共有が遅れた一方で、「つながりんぐ」の誕生や種のプレゼント、世代を越えた連携など、様々なミラクルが生まれた。（
　次回は、当然時間的リミットはしっかり設けるべきであり、思いつきのような無理難題に振り回されることがないようにしたいが、全てを計画的、目的的にやろうとすると、まつりとしての楽しさ、熱さを失いかねないので注意したい。サポーターとして、多様な参加者を受け入れつなげ、こんなことしたい！とか、これ絶対楽しいはず！といった『夢と遊び心』を持って、りぶらまつりに臨むことが一番大事であると考える。（
　また、ＬＳＣの会員や参加者の意識統一を図るため、りぶらまつり自体の目的の明確化(目的、目標、対象)や可視化（利用者にも分かりやすく伝えるコンセプトなど）について、しっかりと話し合うことが必要である。また、参加者からは、「市民の意識変化を促す実践的情報発信基地となるまつりとなってほしい」という意見があった。（
（

（
（

（

TSUNAGA
RING

広報部：（No.1）

（　　（

リーダー：　　杉浦仁美（

プロジェクトの目的：　　Libra の活用を図り、りぶらサポータークラブの周知と賛同者を得るための広報を行う。（

活動実績（
（活動日・参加人数等）：

（5/1（ 「Libra（I（on, vol.3」発行（ （500 部（
（7/1（ 「Libra（I（on, vol.4」発行（ （500 部（
（9/1（ 「Libra（I（on, vol.5」発行（ （500 部（
11/1（ 「Libra（I（on, vol.6」発行（ （750 部（
（1/1（ 「Libra（I（on, vol.7」発行（ （750 部（
（3/1（ 「Libra（I（on, vol.8」発行（ 1,500 部（
（
（6/1（ ホームページ開設（
（8/1（ メールマガジン（リニューアル版）発行開始（

プロジェクトの成果：

【情報誌について】（
・総合受付カウンターに置いていただき、２ヵ月でほぼ全部数がはけてい（
（る。（
・作業室にカラー印刷機が導入され、表紙をカラー刷りにしたことで見栄（
（えがよくなった。（
・図書館と連携して、図書館の情報を定例的に載せることができた。（
・スタッフが増え、つながりが広がった。（
【ホームページについて】（
・情報の「見える化」を実現した。（
・「資料室」としても機能している。（
・素早い情報発信ができるようになった。（

平成 22 年度の展開：

・隔月発行（奇数月 1 日）1,000 部。（
・ホームページの内容整理と更新。（
・情報誌の内容の充実を図る。（
・コンビニラックの設置場所を再検討し、配送者を確定して活用を図る。（

研究部：デジタル映像活用Ⅱ（No.5）

（　　（

リーダー：　木村(剛也

（　　（

プロジェクトの目的：　1）歴史・文化･町並みを保存するために地図や映像を探し、デジタル化する。（

2）城下町岡崎の誇りと郷土愛を育むためにこれを活用し、多くの機会に紹介する。（

3）映像検索システムを Libra に構築する。（

活動実績（　　1）映像発掘はプロジェクトチームの情報交換により絶滅危惧種の映像発（

（活動日・参加人数等）：　（ 掘に努め、「矢作橋」「中根家所有岡崎城絵図」「岡崎城惣構調査結果」（

（ 「松坂屋開店当時の街」「昭和 30 年代の町並映像」など多くを発掘し、（

（ デジタル保存ができた。（

2）多くの機会に収集した映像を紹介した。（

（ 「岡崎南ロータリークラブでの卓話」「梅園小学校６年生の授業」「街情（

（ 報センターでの公開」「秋の岡崎市民まつりに参画」「図書館まつり」「愛（

（ 知学泉大学の授業や街歩き」「タイムスリップツール試作への映像提供」（

（ 「CT ミクス・中日新聞・籠田公園再生 WS などへの映像提供」など。（

（ 多くの市民からこのプロジェクトへの応援メッセージがいただけた。（

3）データバンクを利用しての映像検索システムについては、映像の持つ情報量が書籍１冊のそれと勝るとも劣らないことを、多くの方々に理解して頂くように啓蒙活動をしてきた。（

プロジェクトの成果：　町並の映像を保存のための映像発掘は、多岐にわたった。また、LSC の活動から生まれた OSC(岡崎アーカイブスセンター）とも協働して、活動への理解者も増え、特に行政サイドからの応援が増えた。（

平成 22 年度の展開：　現在のプロジェクト「デジタル映像活用Ⅱ」は解散して、新たに次のステップ「映像データバンク構築の調査研究」に繋げていきたい。（

（

（（（ （（（ （

研究部：岡崎図書館未来企画（No.4）

(	(
リーダー：(	戸松恵美(
	(
プロジェクトの目的：	「図書館を核にした生涯学習施設」である『りぶら』をより活用できる施設にするために、具体的に何をしなければならないかを考え、図書館の未来について考える。(
	岡崎市の図書館にふさわしい評価指標をつくり、客観的なデータに基づいた市民の声を図書館に提案する。(
	(
活動実績(	評価指標づくり(
（活動日・参加人数等）：	４月２０日(月)(19:00～20:00((場所：市民活動コーナー(５名(
	５月１１日(月)(19:00～20:00(((場所：市民活動コーナー(４名(
	６月６日(土)(14:00～15:30(((場所：市民活動コーナー(５名(
	(
	永田潤子氏「評価指標づくりチェック＆アドバイス」((
	6月14日（日）13:30～16:30(場所：Libra101会議室(７名(
	講座の振り返り(
	７月６日(土)(19:00～20:45((場所：市民活動コーナー(５名(
	(
	アンケート項目を考える(
	８月３日(月)(19:00～20:45(((場所：市民活動コーナー(５名(
	９月７日(月)(19:00～20:45((場所：市民活動コーナー(４名(
	10 月 5 日(月)(19:00～20:40((場所：市民活動コーナー(2 名(
	12 月７日(月)(19:00～20:40((場所：市民活動コーナー(４名(
	１月２５日(月)(19:00～20:40((場所：市民活動コーナー(４名(
	２月２２日（月）)(19:00～20:40((場所：市民活動コーナー(３名(
プロジェクトの成果：	評価指標を作るためのアンケートの内容と実施方法を決めた。(
平成 22 年度の展開：	6 月の末頃にアンケートを実施し、集計・発表を経て評価指標の再検討につなげる。

研究部：りぶらグッズの開発と販売（No.10）

（　　（

リーダー：　　戸松恵美（

プロジェクトの目的：　　利用者に有用なグッズを開発し、施設の活用に活かす。オープン１周年事業として、11 月に何点かのグッズを販売できるようにする。サポータークラブの収益事業になるような商品開発をめざす。（

活動実績（
（活動日・参加人数等）：　　①プロジェクトの目的・内容・目標を確認。（
4 月 17 日（金）（ 14:00～15:10（（場所：市民活動コーナー（ 6 名（
②年間スケジュールと第 1 次商品の検討（
6 月 18 日（木）18:30（～（（場所：運営委員会（102B）運営委員 15 名（
（
<６月>デザイン・販売数の検討・決定（、保管場所・販売場所等の検討（
<７月>りぶら市民協働事業実施計画書の提出（・発注（（
<８月>愛フェス 2009 準備（（
<９月>愛フェス 2009 で販売（
<10 月>Libra での販売準備（（
<11 月>11/1 から Libra で販売、図書館まつりで販売（
<２月>りぶらまつりで販売（
<３月>収支報告（・棚卸し（
（（（（（（（（（（（（（（（（（（（（（ 販売価格（
・トートバッグ（（ 400 枚（2 種各 200）（（（（1,000 円（（
・コットンバッグ（ 400 枚（（（（（（（（（（500 円（（
・缶バッジ（（（（ 200 コ（（（（（（（（（（100 円（

プロジェクトの成果：　　3 月末までの販売数（（（（（（（（（（（ 売上（
・トートバッグ（（ 40 枚（（（（（（（（（ 40,000 円（（（（
・コットンバッグ（ 44 枚（（（（（（（（（（22,000 円（（（
・缶バッジ（（（（ 56 コ（（（（（（（（（（（5,600 円（

平成 22 年度の展開：　　広報をしっかりやって、認知度を高めていきたい。また、LSC の主催するイベントや事業ごとに販売の機会を作っていきたい。

研究部：ボランティアシステムを考える会（No.6）

(　　(

リーダー：(　　山田美代子(

(

プロジェクトの目的：　　りぶらの中でのボランティアをしたい人としてほしい団体や人を上手にマッチングし、りぶらの活動を活発にするシステムを考える。(

活動実績(

（活動日・参加人数等）：

①草取り交流会＋例会(　(

(5 月 9 日(土)(10：30～17：00(参加者(延べ３１名(

(・りぶらの芝生などの草取りをしながら交流。(

(・ボランティアシステム(VSP)の目的、目標を決める。組織体制の決定。(

②例会(毎月第１月曜日 14：00～16：00(参加者：延べ 43 名(

③例会後草取り(5 月～9 月 16：30～17：00(疲れを取る太極拳講習(

④ボラみ展見学(7 月 5 日(日)10：00～13：00(　(

(淑徳大学(名古屋)(参加者(7 名(

⑤ボランティアコーディネーター養成講座(　(

(7 月 11 日（土）10：00～12：00(　(

(りぶら 303 会議室：参加者 17 名(

(講師：斉藤育生氏(帝国ビル管理会社)(　(　((

⑥刈谷市民ボランティア活動支援センター視察(

(9 月 15 日(火)10：00～13：00(　(参加者 11 名(

(相談業務とマッチング業務の考え方の講習、事例紹介、意見交換(

⑦図書館まつりのボランティアコーディネート(

(11 月 21 日（土）・22 日（日）(ボランティア延べ５名(

⑧りぶらまつりのボランティアコーディネート(

(平成 22 年 2 月 27 日（土）・28 日（日）ボランティア 30 名(

⑨ボランティアコーディネーター入門講座（“りた”との協働）(

(3 月 13 日（土）10：00～12：30(ボランティア室(

(講師：織田元樹氏（NPO 法人ボラみみより情報局）：参加者 22 名(

(13：30～17：00(講師への相談(参加者 5 名(

⑩りぶらボランティアガイダンス(

(3 月 15 日（月）～20 日（土）13：30～16：00(ボランティア室(

(　・15 日（月）イベント・市民活動団体サポート：参加者 13 名(

(　(りぶらサポータークラブ、岡崎まち育てセンター・りた(　(　(　(　(

(　・16 日（火）託児サポート：参加者 9 名：りぶらっこ☆ふぁみりー(　(

(　(・18 日（木）図書館サポート：岡崎市立中央図書館：参加者 13 名(

(　・19 日（金）施設サポート：Libra 総務：参加者 10 名(

(　・20 日（土）福祉ボランティア総論：参加者 8 名(　(

(　(岡崎市社会福祉協議会(　(

プロジェクトの成果：

・VSP の目的や今年度の目標の決定。(

・ボランティアの概念や相談業務、マッチングについての共通意識ができた。(

・ボランティアコーディネーター講座により、ボランティアのマネージメントについて学ぶことができた。(

・ガイダンスでは、参加者から詳しくボランティア動機を聞くことができ、(

(登録者を増やすことができた。(

平成 22 年度の展開：

・ボランティアのコーディネートとマネージを“りた”と分け、ボランティアをマネージすることとする。(
・ボランティアマネージャーの育成。(
・ボランティアのマネージメント（受け入れ、活動環境の整備、育成等)。(
・“りた”のボランティアシステム構築のサポート。

りぶらフォーラム↓・りぶらまつり→

研究部：りぶら、施設活用状況の一覧表示システム化と利用者行動観察（No.7）、、、

(

リーダー：

森(和弘

(

プロジェクトの目的：

・公共施設としての「りぶら」が永続的に生涯学習の拠点であり続けるには、利用者の施設活用理由のメカニズムを研究する必要がある(
・生涯学習情報を事前に広く知らせる事や、多様な利用者の活用状況を開示する事により、利用者を支援する(

活動実績(
（活動日・参加人数等）：

＊メンバーの曜日都合と、複数回参加による理解を深めるため、各月第２火曜日と第１金曜日に定例の会合を開催（各月 10 名程の出席が有った）(
・((((４月：プロジェクトの趣旨、目的の細部確認(
・(５～(７月：方法論の検討と設定及び夏季終日観察の実践(
・(８～(９月：情報コーナーの改善と滞在時間調査の実践(
・１０～１２月：秋季終日観察と一覧表示の実践及び課題整理と展開(
・(１～(３月：冬季終日観察の実践と年度のまとめ及び次年度への展開(
＊９月度に滞在時間調査の実践(

プロジェクトの成果：

＜目標に対する実績＞(
最終目標：市民の「りぶら」活用度の向上に寄与する(
数値目標：男性の活用率を５割増にする（２/５⇒３/５）(
実((績：休日は変化なし、平日は３/５(
(
実施目標：施設活用状況一覧表の手書きシステムの確立(
((((：利用者行動調査システムの確立(
実((績：施設活用状況の一覧表示化の試行（活用され好評である）(
((((：利用者の日々の行動を推測する為の、入館者数推移や定期的な(
(((((層別観察のシステムが形になってきた(

(

＜個別の成果＞(
・基本的な行動観察の必要性や利用者（お客様＝買い手側）に対する、(
(提供者（売り手側）や支援者（世間側）の接し方が統一出来てきた(
・利用者行動観察の結果から見えた利便性の向上の必要性に対する、(
((情報コーナーの改善が少しずつ出来るようになってきた(
・お客様の行動のメカニズムが、少しずつ見えてきた

(

平成 22 年度の展開：

・りぶらのコンセプトである、４つの機能とリンクさせた、定期的継続的(
(なお客様行動指標の標準化をしていく(
・より詳しいお客様の行動を観察する為に意識調査の方法を研究していく(
・出来るだけ費用のかからない市場調査の方法を研究しながら、市民とし(
(てのマーケテイングシステムが構築できるように、協働体制を強化して(
(いく必要がある(
・お客様が利用しやすいコーナーやシステムを提案しながら、他の事業に(
(も活用できるようなデータバンクを目指していく

研究部：りぶら、生涯学習市民セミナー（講座）研究（No.8）、、、

（　　（

リーダー：　　森（ 和弘

（　　（

プロジェクトの目的：　　市民による、市民のためのセミナー、市民がお互いに「伝える・習う・支える」を実践することにより、自己の実現が図れるセミナー開設の為の講座の試行と、システムについて研究する。（

活動実績（
（活動日・参加人数等）：

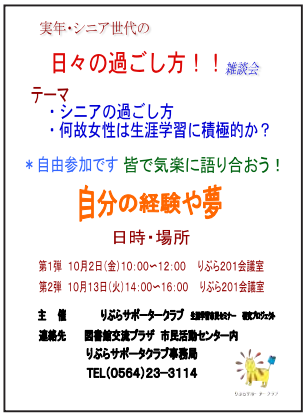
＊メンバーの曜日都合と複数回参加による理解を深めるため、各月第２火曜日と第１金曜日に定例の会合を開催（各月 10 程の出席が有った）（
・（（（ ４月：プロジェクトの趣旨、目的の細部確認（
・５～（ ７月：事態調査の実施（
・５～（ ８月：生涯学習の勉強会を実施（
・８～（ ９月：生涯学習記録票の試行版準備（
・９～１２月：ﾓﾆﾀｰｾﾐﾅｰの実施と記録票の試行（
・１～（ ３月：ﾓﾆﾀｰｾﾐﾅｰの実施と年度のまとめ及び次年度への展開（

プロジェクトの成果：

＜目標に対する実績＞（
最終目標：市民の「生涯学習」実践率の向上に寄与する（
実（（ 績：詳細は未だ不明（ﾓﾆﾀｰｾﾐﾅｰ参加者 10 名の実績のみ）（
（
実施目標：りぶらの市民セミナー開設準備を完了する（
（（（（ ：生涯学習記録表の設定準備完了（
実（（ 績：３本柱を中心とした市民セミナー開設準備を完了した（
（（（（ ：生涯学習記録表の試行版が、完成し配布完了した（
（
＜個別の成果＞（
・基本的な生涯学習の概念や必要性等の認識統一が出来てきた（
・市民セミナーの形態やシステムの方向が少しずつ見えてきて、岡崎市（
（ の「第２次生涯学習推進計画」に反映できるようになった（
・毎回の会合そのものが市民セミナー的な進め方ができるようになった（
・１０月と１月に、市民モニターセミナーを開催でき好意的評価を得た（

平成 22 年度の展開：

・生涯学習記録表の、モニター結果を集約して正式版を発行する（
・出来るだけ費用のかからない、生涯学習システムの方法を研究しつつ、（
（ 市民の生涯学習普及（底上げ）が可能なシステムが構築できるように、（
各分野との協働体制を強化していく必要がある（
・りぶらにしかない、りぶらならではのテーマや内容及び形態を実践し（
（ つつ、他の施設にも展開できるようなセミナーの確立を目指していく（



研究部：つながろう“いのち”（No.9）

（

リーダー：（

プロジェクトの目的：（

（

斎藤美紀（

（

（「いのち」というキーワードで、市民・団体・学校・行政をつなぎ、子どもの健全育成に寄与する中心的な施設の構築を目指す。（

活動実績（

（活動日・参加人数等）：（

①5 月 2 日こどもまつりに LSC に協力という形で参加した。輪投げ・羊（

（ 毛クラフトなどを行い約 600 人から朝食アンケートの回答があった。（

②8 月 20～21 日『夏休みイベント”伝えようういのち“』を開催。（

（ 1 日目の午前「出会い系サイトほんとうのはなし」と題し児童養護施設（

（ 大阪市遥学園の中井良次氏による中学生と大人を対象にしたワークシ（

（ ョップを開催した。（

（ ・参加者数：中学生講座 18 名、大人講座 30 名（

（ 午後「ふれあい赤ちゃん」を開催。（

（ ・参加者数：中学生 3 名、小学生 2 名、赤ちゃんと親 20 組（

（ 2 日目「ブックトーク」実施：参加者数 7 名（

（ 2 日間通してのべ 87 名の参加者があった。（

③9 月 27 日「福祉まつり」に、勇気づけの子育て陽だまりの会の関連（

（ 団体として参加した。（

④11 月 1 日図書館まつりの時期に関連したイベントとして「いのちの（

（ 体験ワークショップ」を開催した。（

（ ・寸劇「ねえ聞いて、わたしママになるの」（

（ ・心臓の音を聞こう（

（ ・脈を感じよう（

（ ・大切なお話「生まれるよ」（

（ ・絵本タイム「おっぱいのはなし」「からだの中からドウンドウン」（

（ ・赤ちゃん交流会「赤ちゃんを抱っこしてみよう」（

（ ・工作タイム「風船電話を作ろう」（

（ 参加者数：母親３名（うち妊婦１名）父親１名、赤ちゃん３名、（

（（（（（（ 幼児２名、小学生 11 名、応援スタッフ１名（ 合計 21 名（

⑤りぶらまつりではひとやすみカフェを開催した。（（

（

プロジェクトの成果：（

＜個別の成果＞（

・夏休みイベントに参加した中学生が、りぶらでのボランティア活動をするきっかけになった。（

（

（

（

（

・「出会い系サイトほんとうの話」では参加者から聞いてよかったとの感想が多く聞かれ、「中学生も知らないことがたくさん聞けてよかった。ためになる講座を受けられた」など、中学生・教員・市民が知識を得られる機会を作る事ができた。（

・赤ちゃん交流会では、普段赤ちゃんに触れ合う機会のない子どもたちから「赤ちゃんってやわらかい。赤ちゃんは可愛い」という声を聞いた。（

・いのちの体験ワークショップでは、子どもが楽しんだのはもちろんの事、妊婦さんと夫さん、はいはいの赤ちゃん連れの母親などから、「大人も癒されました。とてもゆったりとしたいい時間を過ごせました」などの感想が多く聞かれた。（

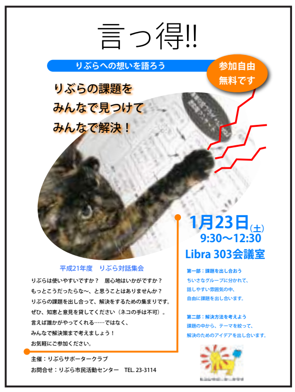
（

・赤ちゃんを持つ親の直接喜ぶ顔が見えたことも成果のひとつである。
・「福祉まつり」では間接的ではあるがつながりが持てた事もよかった。
・「りぶらまつり」では、ひとやすみカフェにゲストで参加される方が次々に増えてそれぞれがまつりというキーワードでつながれた1日になった。
・「りぶらまつり」“いじめを考えよう！”では参加者の感想として『学校で行ってほしい』『どうしたら学校で行えるのか？』などが多く聞かれいじめに対する関心の高さを感じた。
・“いのちの健康教室”では『中学生の娘に小学生の時に聞かせたかった』子どもからは『知らない事が分かって安心した』などの感想があり有意義な時間となった。

平成22年度の展開：

つながろう“いのち”としてではなく違う形を取りながら、子どもの健全育成のための、つながりを模索していきたい。

◇◇



施設活用部：りぶらっこ☆ふぁみりー（No.11）

(	(
リーダー：(	山田美代子(
	(
プロジェクトの目的：	子どもを持つ保護者のりぶらの利便を図る。子どもはほかの子と遊ぶことにより成長する。サポーターは子どもに関する活動により、社会貢献する。２１年度は定期託児と講座託児、親子交流事業をする。(
	(
活動実績(	①スタッフ研修：４月３日（金）101 会議室：参加者 20 名(
（活動日・参加人数等）：	(講師：澤田佳純氏（安城市託児グループ“くれよん”）(
	②子どもまつり“りぶらっこあつまれ”(５月２日（土）((
	(乙川河畔：参加者 600 人余：スタッフからは５人(
	③親子お楽しみ交流会「親子で楽しむリトミック」(４回((
	(りぶら会議室他：参加者延べ(53 組の親子・スタッフ 47 名(
	④豊橋子ども未来館見学(6 月 11 日（木）(参加者(７名(
	⑤託児グループ“たんぽぽ”（名古屋）との交流会((
	(9 月 17 日（木）103 会議室：参加者 25 名(
	⑥図書館まつり(講演会「子どもの発達と遊び」: 301 会議室((
	(11 月 19 日（木）午前：参加者 19 名・託児 4 名・スタッフ 3 名((((
	(講師：山田光治氏（社会福祉法人(愛知県母子寡婦福祉連合会(愛知母(
	(子福祉センター長(愛知しらゆり荘長）((((((((((((((
	⑦研修会「気になる子どもへの対応と親支援を考える」((
	(11 月 19 日（木）午後(講師：山田光治氏(参加者 17 名(
	⑧りぶらまつり(2 月 27 日（土）・28 日（日）((
	(「いつでも託児」(乳幼児室(
	(参加者：27 日 10 名・スタッフ 6 名：28 日 3 名・スタッフ 10 名(
	⑨研修会「現代のお母さんの子育て意識を学ぶ」((
	(2 月 16 日（火）101 会議室：参加者 20 名(
	(講師：藤田光子氏（子育て支援センター）((
	定例会：毎月１回(りぶら会議室・ボランティア室など(
	参加者：延べ 130 名余(
プロジェクトの成果：	・研修会をすることにより、託児に関わるスタッフの意識、技術の向上ができた。それにより、りぶらの託児の質の向上につながった。(((
	・親子お楽しみ交流会を開催することにより、りぶらや乳幼児室の利用広(
	(報ができた。また、お母さん同士、スタッフとお母さんや子どもの交流(
	(ができ、輪が広がった。(
平成 22 年度の展開：	・定期託児や講座託児の拡大(
	・りぶら全体、図書館や乳幼児室(
	(の子どもや保護者支援拡大(
	・岡崎市内の子育て支援団体との(
	(つながりを持つ(
	・自立して活動できるようにする(
	・子どもを持っているお母さんた(
	(ちの交流支援
(	

施設活用部：岡崎むかし語りの会（No.12）、、

(	(
リーダー：	荒木かずえ(
(	(
プロジェクトの目的：	祖先の生活の中から生まれ育まれた昔ばなしを語り広げることにより、(ふるさとを知り、再認識して貰えることを願って活動する。(、
活動実績(	・「やはぎの昔ばなし」8 月 6 日（木）10:30～11:30(
（活動日・参加人数等）：(	(場所：西部地域交流センター「やはぎかん」参加者 15 名(
プロジェクトの成果：	・図書館まつり「大人も愉しむ岡崎の昔ばなし」(11 月 21 日（土）18:00～19:00((場所：子ども図書室「おはなしの部屋」参加者 31 名(・講演会「おかざきのむかしばなし『再話への道』澤(博史氏(2 月 23 日（火）10:30～12:00(場所：りぶら会議室 101 参加者 12 名(・りぶらまつり：ペープサート「油かけ大黒天」(2 月 28 日（日）11:00～、14:00～(場所：りぶら和室(・「岡崎のむかし館」活用事業：毎月第 4 木曜日 16:30～17:00((参加者（延べ）381 名（月平均）27 名、
プロジェクトの成果	・地味な活動といえるが、少しづつ定着しつつある(・“岡崎にこんな話があるのを初めて知った”との参加者の声もある(・ふるさとの再認識の目的に少しづつだが近づきつつある（プロジェクトの終了）(、
平成 22 年度の展開：	・なごみん開館 5 周年記念イベント(((平成 23 年 4 月 18 日（日）「岡崎北のむかし話」(・今後は語りを中心に活動の場を広げたい(、

施設活用部：りぶら・ぶらりマップ（No.13）

（　　（

リーダー：　　酒井（ 立子

（　　（

プロジェクトの目的：　　Libra を基点におかざきの街を歩くためのリアルタイムな情報を提供する「りぶらぶらりマップ」の作成・改訂。「りぶらぶらりマップ」を活用した、ふるさと岡崎の魅力を掘り起こし、伝えるさまざまな活動。（

活動実績（
（活動日・参加人数等）：　　①4 月 1 日～15 日（ ぶらり to かりんとうキャンペーン開催（
（ 先着 200 名の方に、「りぶらぶらりマップ」を購入していただき、情報提供時に「かりんとう」をプレゼントするイベントを実施した。（
②8 月末（ 岡崎ぶらりポストカード制作（
（ 9 月 4・5 日実施の「愛フェス」に間に合わせて 6 種類のポストカードを作成・発行した。（
③9 月 4・5 日「愛フェス」にてマップ・ポストカード販売（
（ 「愛フェス」会場のりぶらサポータークラブのブースでマップ・ポストカードを販売した。（
④11 月 22 日（ 図書館まつり（ 協賛（ まち歩きイベントの実施（
（ 「りぶらぶらりマップ」を持ってまち歩きをして頂き、 6 箇所のポイントをクリアした方にポストカード 1 枚をプレゼントするイベントを実施した。（

プロジェクトの成果：　　りぶらぶらりマップの初版 500 部を 2008 年 11 月 1 日に発行以来、現在第 3 版を販売している。地元のお土産としてもその知名度を高めており、9 月発行のポストカード（6 種類）と共に、中心市街地活性化施設としての「岡崎市図書館交流プラザ Libra」のグッズとしての地位を確保出来た。（

平成 22 年度の展開：　　りぶらぶらりマップは、現在販売中の第 3 版が完売するタイミングを計って改訂版としての第 4 版を発行したい。ポストカードは新シリーズとして、（今とは違うポストカードを検討する予定。

施設活用部：庭で遊ぼう（No.14）

（ （

リーダー： 杉浦（ 仁美

（ （

プロジェクトの目的： ①りぶらの庭（伊賀川～岡崎公園への自然回廊）を生かし市民の憩いの場とする。（

②岡崎のまちなかの“意外にも”豊な自然について広く市民に情報発信する。（

③子どもたちが安心して自然遊びを楽しめる環境を整備する。

（ （

活動実績（ 4/4：「りぶら」周辺で見られる野鳥を紹介するクイズを実施した。

（活動日・参加人数等）： 4/29：「渡りの季節、野鳥を見てみよう」と題した「りぶら」周辺の探鳥会を実施した。探鳥会の目的として「この街は人間だけの住処ではなく自然と共存している事を再認識し、参加者自信が自然との共存について考えをめぐらす事」を掲げ、14 種類の野鳥を確認した。（

8/10：「りぶらでぽんつく」イベントを実施した。当日は、びんどうの作成・（ 水めがねの作り・割り箸を使った、ザリガニ釣用の竿を作成等も行い、り（ ぶら西側の伊賀川の生き物を観察後、捕まえた生き物は伊賀川に帰した。

12/20～12/26：空き缶ドルの制作と空き缶ドルナイトの実施

（ 都心再生協議会主催の「家康生誕の日」のイベントの一つとして協働事業（（ で、12/20～順次「空き缶ドル」を作成し、12/26（17:00～18:00）空き缶（ ドルナイトを実施した（点灯した空き缶ドルは 120 個）。（（（（（（

（

プロジェクトの成果： ・「野鳥観察」や「ぽんつく」といった事業に参加した方々を中心に、活動実績に表記されていない日常の自然に対する認識が深まっていったものと思われる。（

・2008 年 11 月に作成し「りぶら」「南公園」に掛けたバードハウス 10 個のうち 3 個にはシジュウカラあるいはヤマガラの営巣も確認され、こういった活動は時間をかけて行うものであるということを再認識できた。

（ （

平成 22 年度の展開： 22 年度は、LSC 全体事業の一つとして「庭で遊ぼう」を行なうこととなり、他にも「りぶら」の庭を利用した活動を企画することで、生涯学習施設としての「りぶら」の利用法を提言していきたい（現在、環境省生物多様性センターが実施している身近ないきものしらべと LSC の事業を連携出来ないか検討中）。

施設活用部：ひざ掛けづくり（No.15）、

（

リーダー：（

（

稲森禮子（

プロジェクトの目的：（

皆さんから寄付された毛糸（不要になった）でモチーフを編み、つなぎ合わせてひざ掛けをつくり、施設へ届けます。（

活動実績（

（活動日・参加人数等）：

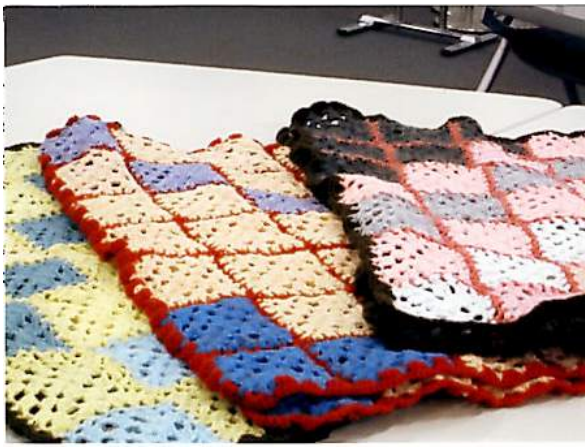
・毎月第２木曜日、10 時から 14 時に活動コーナーで開催。（
・毎回４～6 人の参加者があった（延べ 63 人）。（
・11 月には、お堀通りでひざ掛けを展示しながら活動をした。（
・展示終了後に、ひざ掛け 30 枚を社会福祉協議会に寄付した。（

プロジェクトの成果：

・年末にひざ掛け 30 枚を市内の施設に送ることができました。（
・活動日に新たに参加してくださる人ができました。また、立ち寄ってお話（（ ししていく方もあり、情報交換の場所になりました。（

平成 22 年度の展開：

生涯学習市民セミナーの実践的研究のプロジェクトのひとつとして活動し、しゃべり場づくりに協力していきます。（
（
（



活動育成部：調べ学習講座（No.16）

（
リーダー：　（
戸松恵美（

プロジェクトの目的：　調べ学習を通して、図書館資料の活用と情報の保存を図る。昨年度図書館講座で開催していた「調べ学習講座」の参加者を対象に１０月までに（レポートを完成させることを目的とする。新たに参加希望者があれば、個別対応をする。（

活動実績（
（活動日・参加人数等）：　参加者同士で情報交換をしながら、自分で決めたテーマについて調べ、図書館の使い方やレポートの書き方などを講座形式で進めながら、作品としてまとめました。（
（
５月２１日（木）（ 14:00～15:00（（場所：市民活動コーナー（ ３名（
６月１８日（木）（ 14:00～15:00（（場所：市民活動コーナー（ ４名（
７月３０日（木）（ 14:00～15:00（（場所：市民活動コーナー（ ４名（
９月３日（木）（（ 15:30～16:30（（場所：市民活動コーナー（ ５名（
11 月 13 日（木）（ 10:00～11:30（（場所：市民活動コーナー（ ４名（
発表（図書館まつり）：11 月 24 日（火）10：00～11：40（
（（ 発表者 4 名（（参加者 8 名（
発表（りぶらまつり）：2 月 27 日・28 日（
（（ 発表者３名（ 参加者約 50 名（りぶらの部屋・おはなしの部屋）（
第 13 回 NPO 図書館の学校主催“調べる”学習賞コンクールに、（
３作品を応募した（

プロジェクトの成果：　上記のコンクールに於いて、３作品とも入賞した。（
奨励賞（「岡崎の昔話『お田植え観音』の紙芝居制作と三河弁での発表（
（（（（（ -紙芝居が出来上がるまでの道のり-（ 」（ 柳由美子（（
佳（ 作（「自転車考（ -素晴らしきかな自転車-（ 」（ 長坂（ 進（（（（（
佳（ 作（「たかが映画、されど映画（ -私の映画体験-（ 」（ 森崎健二（

平成 22 年度の展開：　図書館の職員を指導者として講座を開催していくように働きかけてきたが、難しいようだ。リーダー個人の力量に限界を感じ、講座の継続を断念する。

賞状
第13回図書館を使った"調べる"学習賞コンクール
奨励賞
りぶらサポータークラブ
柳 由美子 殿
あなたの作品は「図書館を使った"調べる"学習賞コンクール」におきまして優れたものと認められたのでこれを賞します
平成22年2月20日
特定非営利活動法人 図書館の学校
財団法人 日本児童教育振興財団

賞状
第13回図書館を使った"調べる"学習賞コンクール
佳作
りぶらサポータークラブ
長坂 進 殿
あなたの作品は「図書館を使った"調べる"学習賞コンクール」におきまして優れたものと認められたのでこれを賞します
平成22年2月20日
特定非営利活動法人 図書館の学校
財団法人 日本児童教育振興財団

賞状
第13回図書館を使った"調べる"学習賞コンクール
佳作
りぶらサポータークラブ
森崎 健二 殿
あなたの作品は「図書館を使った"調べる"学習賞コンクール」におきまして優れたものと認められたのでこれを賞します
平成22年2月20日
特定非営利活動法人 図書館の学校
財団法人 日本児童教育振興財団

活動育成部：シネマ・ド・りぶら（No.17）

（
リーダー：　（
戸松恵美（

プロジェクトの目的：　図書館の映像資料の活用し、スクリーンでの映画鑑賞機会を作るとともに、（
映画にまつわる関係資料の案内をして、図書館資料の活用を図る。（

活動実績（
（活動日・参加人数等）：　ホール上映が可能な映像資料を利用し、無料上映会を開催しました。（
【上映会準備】上映会の進め方についてや、上映作品の選定・準備など。（
５月７日（木）14:00～15:30（ 市民活動コーナー（ ４名（
６月４日(木)（ 14:00(～15:30（ (市民活動コーナー（ （ ４名（
７月２日(木)（ 15:30(～16:30（ ((市民活動コーナー（ （ ４名（
８月６日(木)（ 14:00(～15:30（ 市民活動コーナー（ （ ３名((（ （ （
８月１７日(月)（ 15:00(～16:30（ 市民活動コーナー（ （ ３名((（ （ （
８月２４日(月)（ 15:00(～15:30（ 市民活動コーナー（ （ ３名(((
９月１７日(木)（ 14:00(～15:30（ ((市民活動コーナー（３名（
11 月 19 日(木)（ 14:00(～15:30((市民活動センター(3 名（
12 月 3 日(木)（ 10:00(～12:00（ 図書館（ ４名（
1 月 21 日(木)（ 14:00(～15:30（ (市民活動センター(６名（
2 月 18 日(木( )14:00(～15:30（ (市民活動センター（ ４名（
3 月 4 日(木)（ 10:00(～12:00（ 図書館（ ２名（

【上映会】（
『第三の男』10 月 8 日(木)12:30(～17:00（ Libra ホール((
スタッフ：6 名（ ボランティア：2 名（ 入場者：143 名（
『アパッチ砦』12月10日(木)14:00(～16:10（ Libraホール（ 上映会81名（ （
13:00(～17:30（ サロン（ 102A会議室（ 25名（ （ （ （ （ （ （ （ （ （ （ （
『禁じられた遊び』3月11日(木)13:00(～18:00（ (Libraホール（ 110名

プロジェクトの成果：　・上映会に前後して、上映作品の関連図書をポピュラーライブラリーのブラ（
（ ウジングコーナーに展示し、上映作品に関するスタッフのコラムと合わせ（
（ て、上映会当日の配布資料とした。（
・定例的に実施することで、楽しみにしてく（
（ れる人が増えている。（
・上映前後のサロンも好評。交流の場になっ（
（ ている。（

平成 22 年度の展開：　以下の日程で上映会を開催の予定。（
4月(8日（木）午後『嵐が丘』（
6月10日（木）午後『道』（
8月19日（木）午後『少林サッカー』（
10月(7日（木）午後『地下室のメロディー』（
12月(2日（木）午後『私の頭の中の消しゴム』（

活動育成部：詩と音楽の午後（No.18）、、

(	(
リーダー：	大石ともみ(
プロジェクトの目的：	詩の創作、朗読､鑑賞などを通して、言葉を育む機会を提供する。((朗読(音読)の楽しみを伝える。(
活動実績(（活動日・参加人数等）：	(2009 年(((((参加人数者(((((内容(9 月 24 日((((((2 名(((・プログラム内容打合せ(10 月 1 日((((((2 名(((・プログラム内容打合せ(10 月 19 日(((((((2 名(((・プログラム内容打合せ(10 月 25 日((((((9 名(((・朗読参加者打合せ(10 月 26 日((((((2 名(((・プログラム練習(10 月 31 日((((((6 名(((・プログラム練習(11 月 6 日((((((3 名(((・プログラム進行打合せ(11 月 9 日((((((2 名(((・プログラム内容練習(11 月 12 日((((((3 名(((・プログラム進行打合せ(11 月 18 日((((((1 名(((・FM 岡崎出演(11 月 21 日((((((5 名(((・朗読参加者打合せ(11 月 28 日(((((約 170 名・「詩と音楽の午後」りぶらホールにて開催(12 月 16 日((((((3 名(((・「詩と音楽の午後」反省会(2009 年、2010 年、りぶらまつり「ラブック」の一員として打合せ会出席。(2 月 27 日：15 名・28 日：13 名(・「詩を読もう」
(	(
プロジェクトの成果：	11 月 28 日「詩と音楽の午後」を通して(・参加者(当日ホールで聴いてくださった方々)に詩と音楽の相乗効果を体感してもらう機会になった。(・朗読をしたい人を募ったところ、13 名の希望者があった。その結果、多様な作品が集まり、参加者には、詩を身近に感じてもらう一助になった。(2 月 27 日・28 日りぶらまつり「詩を読もう」を通して(・あらかじめテキストを用意しての企画で、参加者には声に出して読む楽しさを体感してもらうことができた。(・作品ごとの簡単な解説、時代背景を話したことにより、詩人の人となりなどを伝えることができ、作品により親しんでもらえた。(
平成 22 年度の展開：	・22 年度は、サポータークラブからは独立するが、サポータークラブの活動から学んだ「生涯学習」の概念を踏まえつつ、今後とも多くの方々と詩を通して交流の輪を広げたい。(

りぶらサポータークラブ（ 平成 22 年度方針（

（

りぶらサポータークラブ代表（ 山田美代子（

（

０．これまでの経緯（

【プロジェクトについて】（

（ 11 月の運営会議において「21 年度に行った個別のプロジェクトの募集はせず、LSC（運営委員）が一体となり、全体を企画運営できることを目指す」ことが了承されました。また、「つながろう“いのち”」「岡崎むかし語りの会」「りぶらっこ☆ふぁみりー」「ひざ掛けづくり」「デジタル映像研究Ⅱ」はそれぞれ独立し、今後は協働というかたちで関わっていくことになりました。（

（

【役員会と運営委員会について】（

平成 21 年度は、役員会とプロジェクトリーダーを中心にした運営委員会を各月１回で実施してきましたが、運営方針への理解に大きな差があることがわかり、20 名の委員数では会議の進行に支障も出てくるようになりました。また、プロジェクトも減少することで、平成 22 年度の運営委員は、役員と代表が指名した会員（プロジェクトリーダーに限らない）の 10 名と決め、役員会を開催せずに、月２回の運営委員会を開催していくことが了承されました。（

（

（

１．平成 22 年度の運営方針について（

（ 2010 年 3 月の運営委員会以降、運営委員一人一人に面談し、りぶらサポータークラブ（以下 LSC）の運営についてのお考えを伺いました。その結果、役員の間でも方針や運営への理解に差があることがわかり、これまでに承認された運営委員会の進め方も見直さなければならないことがわかりました。（

（ 昨年度は、なるべく多くの方の意見を聞いて運営に反映させていきたいと思い、運営委員会を承認機関としてきました。しかし、前述したように全員の意思統一は難しく、会議内で決めていくことが困難になってきました。また役員も、各役務における執行権を持つという責任を全うしなければなりません。そこで、平成 22 年度の LSC の運営を、下記のように進めていくことになりました。（

（

１）運営委員会について、

・代表と副代表・事務局長による「運営企画会議」と運営委員による「事業連絡会議」を毎月各１回開催します。代表は、必要に応じて「運営企画会議」に運営委員や顧問を招聘し、「事業連絡会議」には、関心のある会員も参加することができるものとします。（

・これまで通り運営委員の意見を参考にしつつ、予算と事業計画における決定権と執行権は役員にあるものとします。（

（

（（（（（（ ┌―運営企画会議：3 役が事業の骨格や方針を決め、執行権を持つ（

運営委員会―（（ （３役＋必要があれば役員・りた山田・運営委員・顧問）（

（（（（（（ └―事業連絡会議：事業の情報共有や意見交換を主とする。（

（（（（（（（ （役員を含む運営委員＋りた・山田＋市職員＋事務局員：書記＋関心のある会員）（

２）会員の分類について(

((	個人会員(	団体会員(	賛助会員(	ボランティア会員(
運営スタッフ((((	○(	×(	×(	事務補助(
事業スタッフ(	○(	○(	×(	○(
会(費((((((	年間2,000円(	年間2,000円(	1口1,000円(	なし(
総会における議決権(	有(	無(	無(	無(

※「ボランティア会員」を新たに設定します。(

※それぞれの「会員」の役割と関わり方を明確にします。→入会案内・申込書の改訂(

(

３）財務について、

会費や自主事業（グッズ販売など）による自主運営費と、市からの委託費によって会の事業を進めていきます。(

(

４）事務局機能について、

役員の「書記」・「会計」は、それぞれの役員が担当の事業に専念するために監督役としての役職とし、(

事務局員を募集して実務を担当してもらいます。専任できちんと仕事をしてもらうため、事務局員手当の検討もしたいと思います。(

(

５）会員研修について、

役員・運営委員・会員相互のLSCの運営への理解を深めるため、また法人化も視野に入れて、会員研修を進めていきます。(

(

(

２．平成22年度の事業について(

昨年度は「広報部」「交流部」「研究部」「施設利用部」「活動育成部」という区分で事業を進めてきましたが、1月に開催した「対話集会」において、LSCは「りぶら」のパンフレットにある「4つの機能（図書館・活動支援・文化創造・交流)」をサポートするという意味で、4つの機能に添った事業展開がふさわしいということになりました。そこで平成22年度は、以下の事業区分（運営・広報・研究・事業）と事業形態（全体・個別・協働）で進めていくことになりました。(

((

１）運営について、

前述の「運営方針について」を参照してください。(

区分	事業企画名、	担当者、	対象、	内容・備考、	協働、
運営	総会	山田	会員	5/22	総合支援セ・りた
	運営委員会（運営企画会議）	山田	役員３役	第１木曜夜	総合支援セ・りた
	運営委員会（事業連絡会議）	山田	運営委員	第３木曜夜	総合支援セ・りた
	事務局	戸松	事務員	総務・会計・書記	りた
	会員研修会	杉浦	会員	運営のための研修会年１～2回	りた

(

２）広報について、

広報誌やホームページの内容を充実させ、見やすく親しみやすい紙面を心掛けていきます。(

また、りぶらサポータークラブの存在を周知するための企画を進めていきます。(

広報ツール（グッズなど）は、自主事業の財源として活用していきます。(

区分	事業企画名	担当者	対象	内容・備考	協働
広報	情報誌発行	戸松	一般	（発行部数）年６回	総合支援センター
	ホームページの運用	戸松	一般	更新	総合支援センター
	広報ツールの開発（研究）、、、、、りぶらグッズ・りぶらポイントなど	戸松	運営委員	運営委員会の研究課題	総合支援セ・りた
	広報ツールの運用、、、、、、、、（グッズの販売と活用）	杉浦	一般	コンビニラック･ぶらりマップ・りぶらツアーを含む	総合支援セ・りた、

(

(

３）研究（プロジェクト）について、

昨年の研究プロジェクトを継承し研究します。その成果を実践してりぶらの活用につなげていきます。(

区分	事業企画名	担当者	対象	内容・備考	協働
研究	岡崎図書館未来企画、、、、、、（評価指標づくり）	戸松	会員	アンケートの実施と反映	図書館
	りぶら利用者行動観察の、システム化	森	会員	りぶらのマーケテイィングを考える、	総務
	りぶら市民セミナーの、実践的研究	森	会員	生涯学習実践者の掘起し、	生涯学習
	ボランティアを育む会	山田	会員	ボランティアの育成と組織化	総合支援センター

(

(

４）りぶらの機能に添った事業について、

【全体事業について】(

今年度の「りぶらまつり」は、反省会を含む６回の実行委員会のコーディネートを「りた」に委託します。これまでの「図書館まつり」も含むため、昨年度の「りぶらまつり」をリセットして取り組みたいと思いますが、「つながりんぐ」のつながりを最大限活かせるようにしたいと思います。りぶらで活動している団体や個人と協働し、さらに地域活性化への発展を視野に入れて取り組みたいと思います。「りぶらまつり」における LSC の役割は、実行委員や参加者の交流を促す総合サポートとします。「りぶらまつり」以外にも、利用者や会員の交流を図るりぶら全体を把握した事業を推進します。(

(

【個別事業について】(

個別事業という名称ですが、個人がやりたいだけの企画ではなく、りぶらサポータークラブとして取り組む事業です。リーダーが責任を持って事業を推進していきます。(

(

【協働事業について】(

りぶらの内外を活用する企画を協働で実施する団体を随時募集していきます。また、「りぶらまつり2009」でのつながりを活かしていきます。(

区分		事業企画名	事業形態、、担当者	対象	内容・備考	協働
事業	図書館	岡崎図書館未来企画、、、、、、（読書マラソン）	プロジェクトの反映	一般	読書記録シートの作成と配布	図書館
	活動支援	ボランティアマネジメント	プロジェクトの反映	登録者	年間	りた、
		チーム､HAPPy!､パパ	個別（斎藤）	一般	年間	男女共同参画
	文化創造	講演会	全体（山田）	一般	2 回（フォーラム形式を含む）	総合支援センター
		シネマ・ド・りぶら	個別（森崎）	一般	6 回の映画上映会	図書館
	交流	りぶらまつり	全体（りた）	一般	LSC：活動を中心に・図書館まつり実行委員会：図書館内・りた：まちを視野に入れて	総合支援センター・図書館まつり実行委員会・りた
		りぶら交差点、(LSC 事業公開)	全体（森）	会員、、、一般	2 回：会員およびりぶら利用者の情報交換の場	総合支援センター
		外国人が日本語の歌を歌う、、、のど自慢大会	個別（戸松）	一般	23 年 2 月	国際交流
		庭で遊ぼう（空き缶ドルナイト・グランドゴルフ・ぽんつくなど）	個別、（杉浦） / 協働（杉浦）	一般	地域とりぶらをつなげる企画	総合支援センター、、町内会など
		りぶらを活用（冬のコンサート・協働企画など）	協働（斎藤）	一般	LSC と他団体との協働企画	総合支援センター、、市民活動センター

（

（

５）市民から行政への提言について、

りぶらに深く関わる市民活動団体として、21 年度から市の主催する機関に参画しています。これらの機関への参画を有意義なものにするために、LSC の取り組みや考え方を明文化していく必要があります。また、研究プロジェクトや事業の実施についてきちんと報告・評価をし、Libra 運営に関する市民提言活動を確立する必要があります。（

区分	岡崎市の付属機関に準ずる機関	参加者
派遣	図書館交流プラザ運営協議会	山田・斎藤
	図書館交流プラザ自主事業実行委員会	山田・森
	第 2 次岡崎市生涯学習推進計画策定委員会	森・戸松

（

（

３．平成 22 年度の目標について（

平成 22 年度の運営方針および事業計画から、平成 22 年度の目標として次の 2 つを挙げます。（

・組織的課題の解決：厚みのある組織づくりをする（人材の育成と組織の継続力をつける)。（

・社会的課題の解決：「りぶらサポータークラブ」の知名度を上げる（「みんな知っている LSC」に（

（（（（（（（（（（ なる)。（

長期目標として、「LSC は協働の岡崎モデル」となるようなところを目指していきたいと思います。（

りぶらサポータークラブ平成 21 年度 活動報告書

平成 22 年 3 月

りぶらサポータークラブ
〒 444-0059　岡崎市康生通西 4 丁目 71 番地
岡崎市図書館交流プラザ市民活動センター内
TEL/0564-23-3114　FAX/0564-23-3142
info@libra-sc.jp　http://www.libra-sc.jp